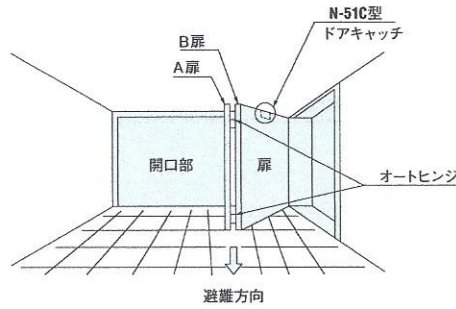


ドアキャッチ取付概要図



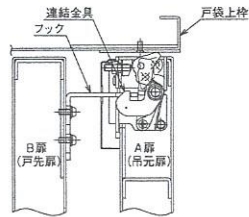
付属部品

部品名	数量	備考
カバー	1	
固定金具	1	
フック	1	
保護プレート	1	
ドアキャッチ・フック取付ネジ	8	M4×10ナベ小ネジ
保護プレート・固定金具取付ネジ	4	M4×8 サッシ用サラ小ネジ
施工/取扱説明書	1	

作動説明図

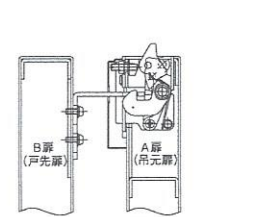
1. 戸袋収納状態

戸袋に収められているA扉（吊元扉）とB扉（戸先扉）は、連結金具とフックで連結され、戸袋上枠または戸袋壁に取り付けた電磁レリーズにより、B扉（戸先扉）を保持しています。



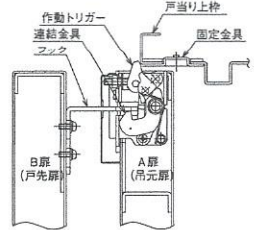
2. 戸袋から解放された状態

運動制御器からの作動信号により、電磁レリーズが作動し、B扉（戸先扉）との保持が解除され、解放されたA扉（吊元扉）とB扉（戸先扉）は連結状態のまま、A扉（吊元扉）の中心吊型オートヒンジの開扉力で閉鎖を始めます。



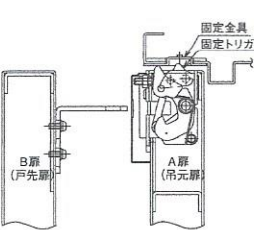
3. A扉（吊元扉）の閉鎖直前状態

作動トリガーが戸当り上枠へ取り付けられた固定金具に当たり始めると、作動トリガーにより連結金具が押し下げられて、フックと連結金具の連結が外れ、A扉（吊元扉）とB扉（戸先扉）の連結が解除されます。



4. A扉（吊元扉）の閉鎖完了状態及びB扉（戸先扉）の閉鎖

A扉（吊元扉）が閉鎖すると固定トリガーが押し上がり、固定金具と保持され、閉鎖完了状態になります。また、B扉（戸先扉）はA扉（吊元扉）から解放され、丁番型及び持出吊型オートヒンジの開扉力で180°回転して、通路側開口部を閉鎖します。

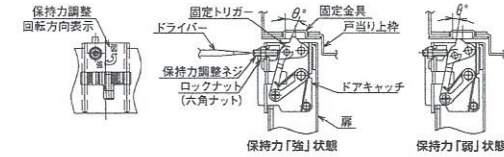


保持力調整方法

扉を吊り込み、ドアキャッチを取り付けた後、戸当り上枠と扉との保持力を調整してください。

【☆1 保持力調整方法】

- 保持力は、戸当り上枠に取り付けた固定金具と扉に取り付けたドアキャッチの固定トリガーとの傾斜角 θ° で変わりますので、保持力の調整はロックナット（六角ナット）を緩めて（時計方向に回す）から、マイナスドライバーで保持力調整ネジを半回転づつ回して、調整をしてください。
※①右（回転方向表示“強”方向）に回すと傾斜角 θ° が大きくなり、保持力が強くなります。但し、保持力調整ネジを回し続けると調整ネジが脱落しますので、注意してください。
- 調整後は、必ずロックナット（六角ナット）を締め付けて（反時計方向に回す）保持力調整ネジを確実に固定してください。
- 保持力調整ネジを固定した後は、必ず扉を数回開閉させて保持力を確認してください。



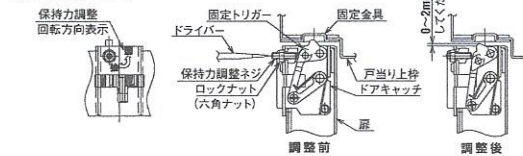
注意事項

フラット金具（MFC-1B型）をご使用の際は、下記の注意事項に従って、戸当り上枠に取り付けた固定金具と扉に取り付けたドアキャッチの固定トリガーとが保持しないように調整をしてください。下記「保持力調整要領」にて調整ください。

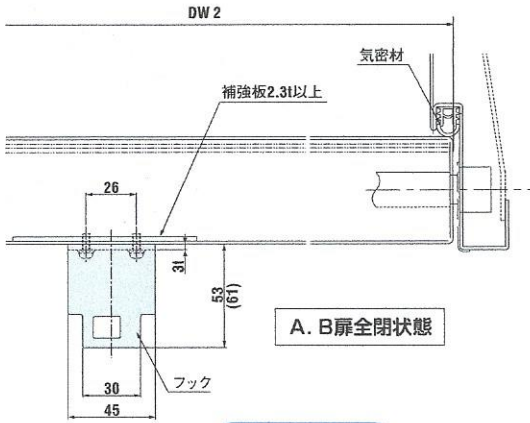
【フラット金具（MFC-1B型）併用時の注意事項】

- ドアキャッチの保持力を調整せず、フラット金具（MFC-1B型）をご使用された場合には、ドアの開閉動作の支障や機器の故障の原因となるばかりか、防火戸閉鎖後扉が開かず避難経路が確保できなくなり、重大事故にいたる可能性がありますので必ず保持力の調整をおこなってください。
- 施工時または定期点検時には防火戸閉鎖後、必ず扉の開動作をおこなって扉が確実に開くことを確認してください。

【保持力調整要領】



※旧フラット金具のMFC-1A型との併用の場合も同じく調整してください。

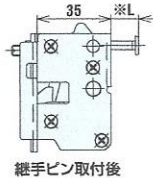
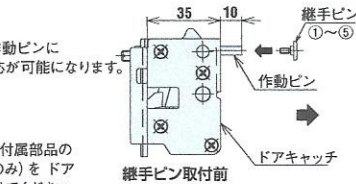


継手ピン取付図

- ◆1. 扉厚に合った付属部品の継手ピンをドアキャッチの作動ピンに取り付けることにより、扉厚40mm~60mmまでの対応が可能になります。CAS-Q258は扉厚55mm以上です。
 - ◆2. 扉厚が65mm以上の場合は、特注品扱いになります。
- 【☆1 継手ピン取付方法】
 1) 下記、「扉厚と継手ピンの組み合わせ表」をご参照の上、付属部品の継手ピン①~⑤の中から、扉厚に合った継手ピン (1本のみ) をドアキャッチの作動ピンにガタ・緩み等がないように取り付けてください。

扉厚と継手ピンの組み合わせ表

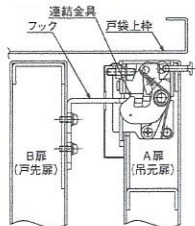
扉厚寸法	継手ピン	※L部寸法
40mm用	継手ピン①	13mm
45mm用	継手ピン②	18mm
50mm用	継手ピン③	23mm
55mm用	継手ピン④	28mm
60mm用	継手ピン⑤	33mm



作動説明図

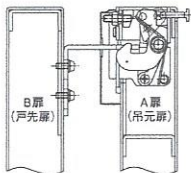
1. 戸袋収納状態

戸袋に取められているA扉 (吊元扉) とB扉 (戸先扉) は、連結金具とフックで連結され、戸袋上枠または戸袋壁に取り付けた電磁リリースにより、B扉 (戸先扉) を保持しています。



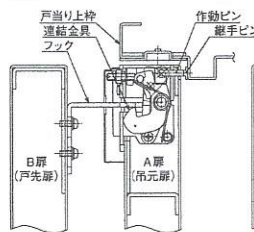
2. 戸袋から解放された状態

運動制御器からの作動信号により、電磁リリースが作動し、B扉 (戸先扉) との保持が解除され、解放されたA扉 (吊元扉) とB扉 (戸先扉) は連結状態のまま、A扉 (吊元扉) の中心吊型オートヒンジの開扉力で閉鎖を結めます。



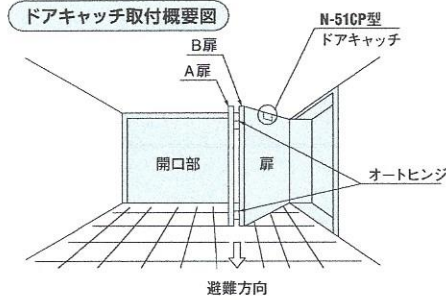
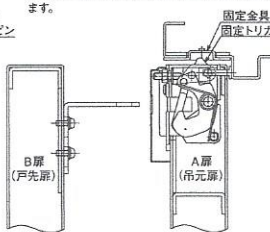
3. A扉 (吊元扉) の閉鎖直前状態

作動ピンに取り付けた継手ピンが戸袋上枠に当たり始めると、作動ピンにより連結金具が押し下がり、フックと連結金具の連結が外れ、A扉 (吊元扉) とB扉 (戸先扉) の連結が解除されます。



4. A扉 (吊元扉) の閉鎖完了状態及びB扉 (戸先扉) の閉鎖

A扉 (吊元扉) が閉鎖すると固定トリガーが押し上がり、固定金具と保持され、閉鎖完了状態になります。また、B扉 (戸先扉) はA扉 (吊元扉) から解放され、T型及び特出吊型オートヒンジの開扉力で180°回転して、通路側開口部を閉鎖します。



付属部品

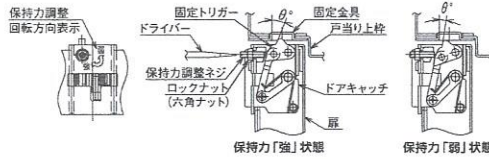
部品名	数量	備考
カバー	1	
固定金具	1	
フック	1	
ドアキャッチ・フック取付ネジ	8	M4×10 ナベ小ネジ
固定金具取付ネジ	2	M4×8 サッソ用サラ小ネジ
継手ピン①	1	扉厚40mm用
継手ピン②	1	扉厚45mm用
継手ピン③	1	扉厚50mm用
継手ピン④	1	扉厚55mm用
継手ピン⑤	1	扉厚60mm用
施工/取扱説明書	1	

保持力調整方法

扉を吊り込み、ドアキャッチを取り付けた後、戸当り上枠と扉との保持力を調整してください。

【☆1 保持力調整方法】

- 1) 保持力は、戸当り上枠に取り付けた固定金具と扉に取り付けたドアキャッチの固定トリガーとの傾斜角θ°で変わりますので、保持力の調整はロックナット (六角ナット) を緩めて (時計方向に回す) から、マイナスドライバーで保持力調整ネジを半回転づつ回して、調整をしてください。
 ※①右 (回転方向表示「強」方向) に回すと傾斜角θ°が大きくなり、保持力が強くなります。但し、保持力調整ネジを回し続けると調整ネジが脱落しますので、注意してください。
- ※②左 (回転方向表示「弱」方向) に回すと傾斜角θ°が小さくなり、保持力が弱くなります。
- 2) 調整後は、必ずロックナット (六角ナット) を締め付けて (反時計方向に回す) 保持力調整ネジを確実に固定してください。
- 3) 保持力調整ネジを固定した後は、必ず扉を数回開閉させて保持力を確認してください。



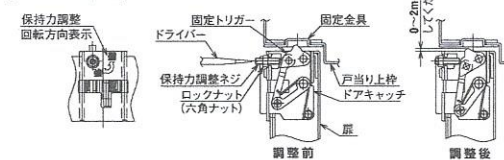
注意事項

フラット金具 (MFC-1A・1B型) をご使用の際は、下記の注意事項に従って、戸当り上枠に取り付けた固定金具と扉に取り付けたドアキャッチの固定トリガーとが保持しないように調整をしてください。

【フラット金具 (MFC-1B型) 併用時の注意事項】

- 注1) ドアキャッチの保持力を調整せず、フラット金具 (MFC-1B型) をご使用された場合には、ドアの開閉動作の支障や機器の故障の原因となるばかりか、防火戸閉鎖後扉が開かず避難経路が確保できなくなり、重大事故にいたる可能性がありますので必ず保持力の調整をおこなってください。
- 注2) 施工時または定期点検時には防火戸閉鎖後、必ず扉の開閉動作をおこない扉が確実に開くことを確認してください。

【保持力調整要領】



※旧フラット金具のMFC-1A型との併用の場合も同じく調整してください。